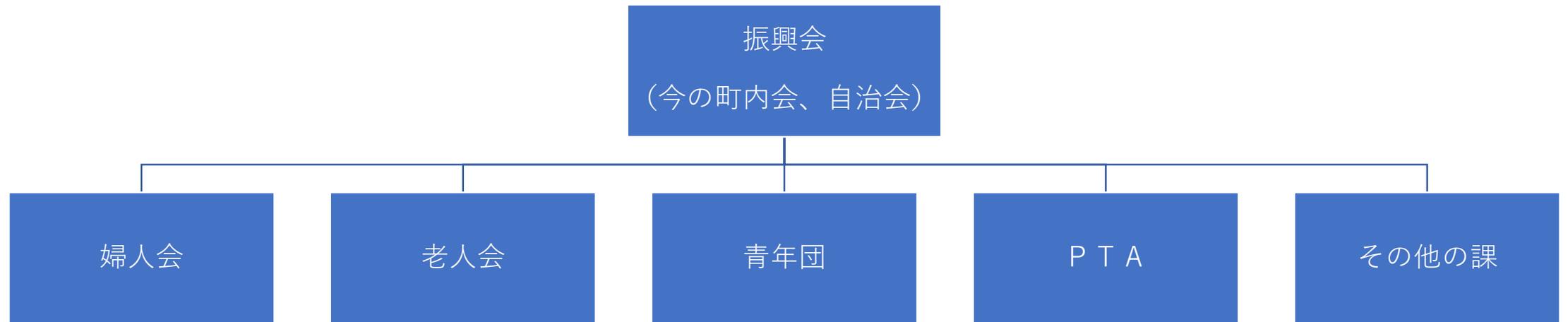


組織（高隈地区生活改善グループ協議会）



※上記、協議会の中で高隈音頭を作ろうと決まる。
当時、青少年健全育成・非行防止が叫ばれる頃

高隈音頭を作ろう会発足

- 結成 昭和59年
- 高隈音頭を作るに当たり、地区民に一言一句何でも良いからと呼びかけ協力を求める。
- 歌詞ができる（一言一句をつなぎ合わせてやっと歌詞になる）
- 作曲（地区にいらっしゃる音楽の先生に依頼）
- 歌い手（上玉利三司さんが歌手としてデビュー）
- 踊り（吉永淳子さんが振り付けを頼まれる）

無予算、無経験の素人集団で走りだし、先ず地区の皆さんにお願い、協力を求め、立派な歌詞が出来上がり、皆様に感謝でした。

目的

- 青少年健全育成・非行防止、住民の心のいやしとなれば・・・
- あの雄大な高隈山、その裾野から広がる笠之原大地、四季折々のすばらしい姿をかもし出し、私たちをはぐくみ、勇気を与えてくれる自然が無限に広がっている。
- どんなことがあろうとも、前を向いて堂々と歩こう！人生は平坦ならず・・・。困った時、苦しい時、悲しい時、くじけることなく、大地を力強く踏みしめ歩いてほしい。のどかな田園風景も思いおこしつつ。

目的

- この歌にはふるさと高隈を愛する親たちの気持ちが……。ふるさとの人たちの暖かい思いが歌いこまれている。絶対落ち込むことなく、くじけることなく、自分には暖かいふるさとがあるんだ！ふるさとの人たちが見守ってくれているのだ！と胸をはって前へ進もう……。
- やがて巣立っていく子等に励みとなれ！幸多かれとなれ……と願う親たちがふるさとにはいるのだよ！……などなど

吉永淳子さんの思い

- せっかく苦勞してできあがった高隈音頭、全住民に歌って踊ってもらいたくて踊り続けました。（早いもので40年走り続けました）
- その頃は各振興会、皆、婦人会活動、老人会、青年団、子供会等盛んに活動していました。その集まりへ伺って、高隈音頭を踊ってもらいました。
- 又、高隈地区の行事、小中学校の運動会、花火大会、鉤引き祭り・・・などなど、口ずさみながら踊ってもらいました。

吉永淳子さんの思い

- 高隈よかところ 高隈よかところで結ばれています。よかところを口ずさみながら手足を動かしてふるさとにはよかところだよ・・・と
- 忘れないでね。思い出してね。心のいやしにしてね。すばらしい自慢のふるさとよ。父母、郷土の人たちは限りなく応援しているよ。忘れずに頑張れ！
- いつまでも踊ってほしい。

吉永淳子さんの思い

- 青少年健全育成のために何か？ないかと思いついた高隈音頭。皆の知恵の結集で心のコもった立派な音頭ができあがり、うれしさと喜びでいっぱいでした。微力ながら私もお手伝いできた満足感を味わいつつ、数知れずご協力下さった皆様に感謝のお礼を申し上げます。いついつまでも高隈よかところと合言葉で元気で暮らしたいです。